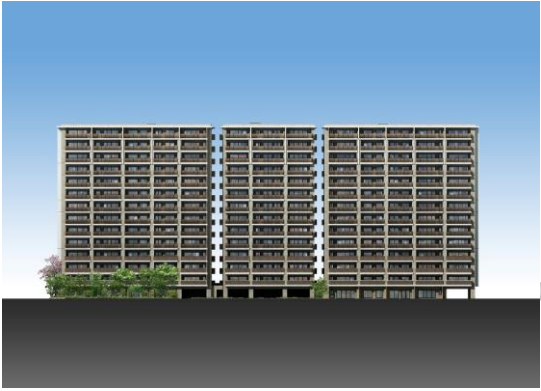


CASBEE®

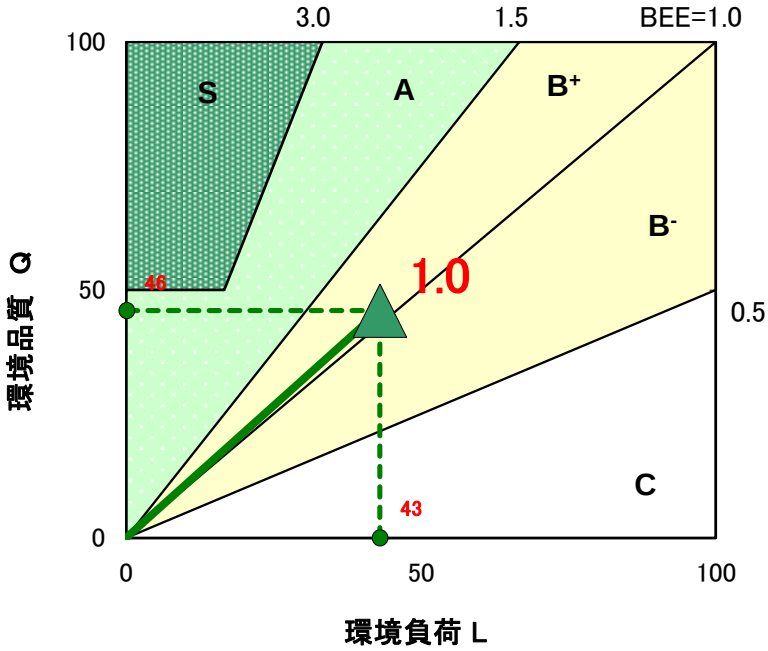
CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)MJR大江2丁目	階数	地上14F		
建設地	熊本県熊本市中央区1900番1	構造	RC造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年3月1日		
敷地面積	5,929 m ²	作成者	桐嶋 ちほ		
建築面積	2,024 m ²	確認日	2016年3月1日		
延床面積	18,947 m ²	確認者	桐嶋 ちほ		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

71%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



76

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

89.8

55.0

75.0

68.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

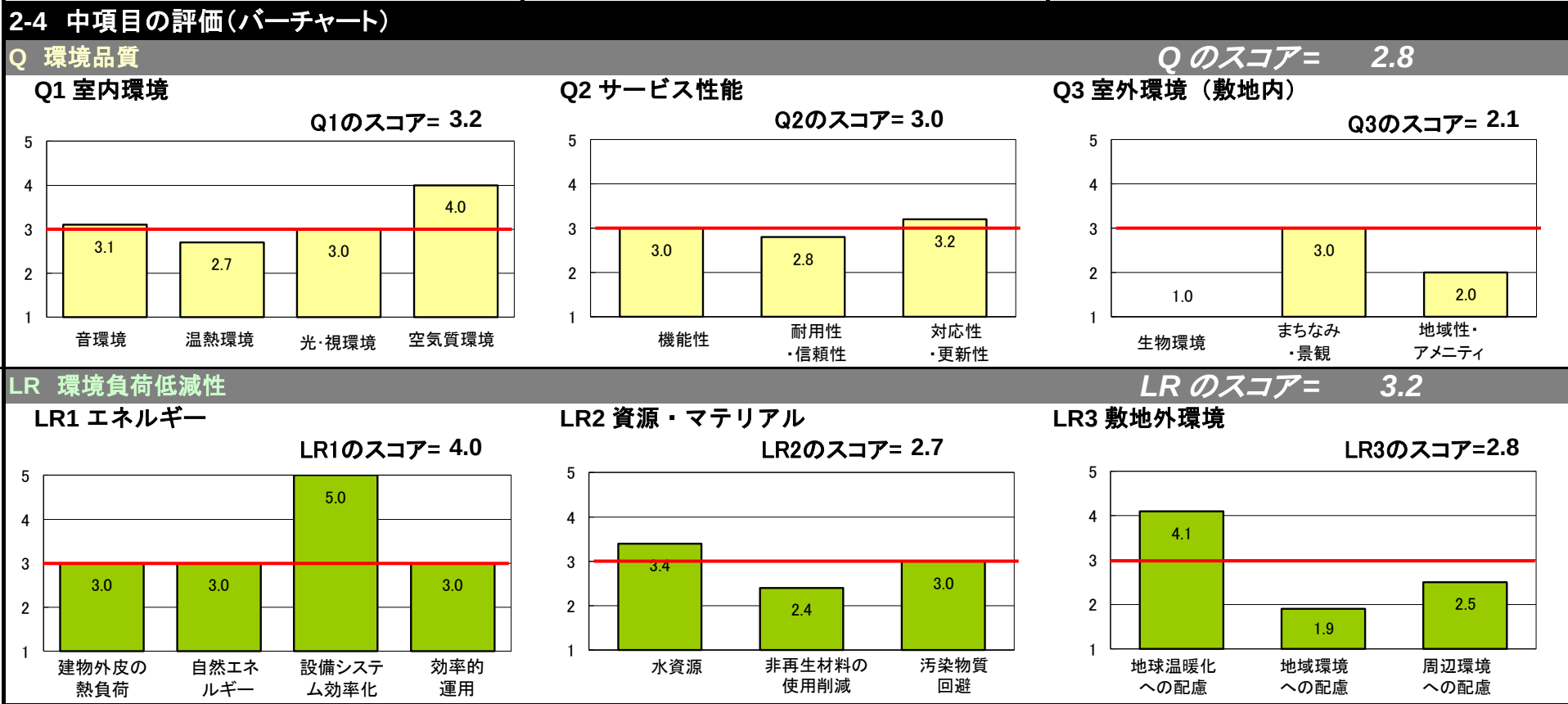
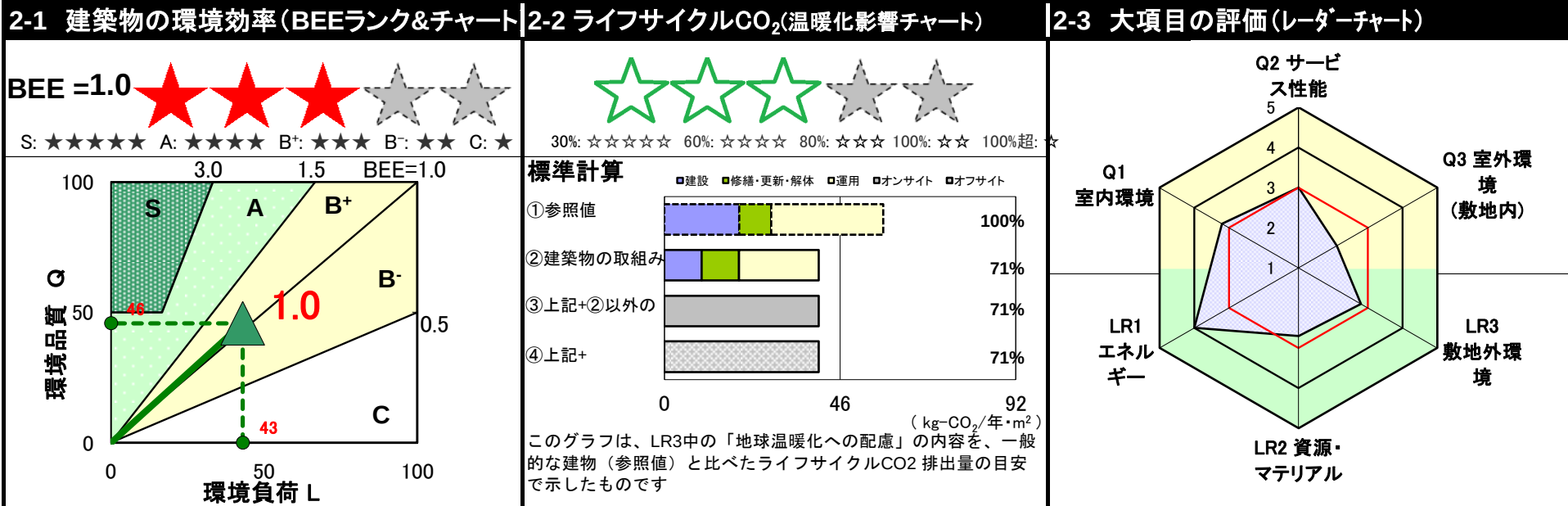
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)MJR大江2丁目	階数	地上14F
建設地	熊本県熊本市中央区1900番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年3月1日
敷地面積	5,929 m ²	作成者	桐嶋 ちほ
建築面積	2,024 m ²	確認日	2016年3月1日
延床面積	18,947 m ²	確認者	桐嶋 ちほ



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)MJR大江2丁目			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)				
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境						0.40		-	3.2
1 音環境					3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.1 騒音					3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					3.0	0.50	3.4	0.50	
1			開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2			界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3			界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	4.0	0.20	
4			界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音					-	-	-	-	
2 温熱環境					1.3	0.35	3.0	1.00	2.7
2.1 室温制御					1.7	0.50	3.0	0.71	
1			室温		1.0	0.63	-	-	
2			外皮性能		3.0	0.38	3.0	1.00	
3			ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	3.0	0.29	
2.3 空調方式					1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境					3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
3.1 昼光利用					4.2	0.30	3.0	0.50	
1			昼光率		5.0	0.60	3.0	0.50	
2			方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3			昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					2.0	0.30	3.0	0.50	
1			昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境					4.6	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策					5.0	0.60	5.0	0.63	
1			化学汚染物質		5.0	1.00	5.0	1.00	
2			アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気					4.0	0.40	2.3	0.38	
1			換気量		5.0	0.50	3.0	0.33	
2			自然換気性能		3.0	-	1.0	0.33	
3			取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					-	-	-	-	
1			CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2			喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.0
1 機能性					3.1	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.0	0.60	
1			広さ・収納性		-	-	-	-	
2			高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3			バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	3.0	0.40	
1			広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2			リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3			内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1			維持管理に配慮した設計		4.0	0.50	-	-	
2			維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3			衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震					3.0	0.50	-	-	
1			耐震性		3.0	0.80	-	-	
2			免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					2.9	0.30	-	-	
1			躯体材料の耐用年数		4.0	0.20	-	-	
2			外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3			主要内装仕上げ材の更新必要間隔		4.0	0.10	-	-	
4			空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5			空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6			主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.4	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				2.4	0.30	3.4	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり	3.1 空間のゆとり			-	-	3.8	0.50	
	1	階高のゆとり		-	-	5.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			2.4	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		1.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
	1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.0	-	-	-		
集合住宅の評価(3c)			5.0	1.00	-	-		
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			-	-	-	-		
4.1 モニタリング			-	-	-	-		
4.2 運用管理体制			-	-	-	-		
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60	-	-	2.4	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
1 消火剤			-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-		
3 冷媒			3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8	
1 地球温暖化への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1	
2 地域環境への配慮			1.9	0.33	-	-	1.9	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-		
2 污水处理負荷抑制			3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制			4.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1 騒音			3.0	0.33	-	-		
2 振動			3.0	0.33	-	-		
3 悪臭			3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-		
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-		
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲の環境に配慮し、建物の外観はアースカラーで統一、敷地外周にはできるだけ多くの植栽を設けた。

Q1 室内環境

居住空間の快適性を重視し計画した。内装材にはF☆☆☆☆を採用。

Q2 サービス性能

階高3.06m、居室天井高2.45mとし、快適な住環境となるよう計画した。

Q3 室外環境（敷地内）

できるだけ多くの植栽を植える等景観に配慮した。

LR1 エネルギー

ほとんどの住戸を南向きに配置し、日照エネルギーを十分に確保した。省エネルギーに考慮した給湯機器、照明を採用した。

LR2 資源・マテリアル

水資源保護への配慮として、節水コマ、節水型便器を採用した。

LR3 敷地外環境

住戸数に対して100%の駐車場を配置。一部縦列駐車で一世帯2台分の駐車場も確保。駐輪場は≒140%確保し、敷地外の近隣に迷惑のかからない計画とした。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)MJR大江2丁目

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				89.8	0.40	35.92
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.9	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				55	0.20	11.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				68.7	0.20	13.74
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数